

# 北斎 視覚のマジック II

## The Visual Magic of Hokusai II

令和3年9月4日(土)~11月14日(日)

この展覧会は、昨年開催された「北斎 視覚のマジック」展の第2弾です。北斎館の名品は今回の展覧会でその多くを網羅することになり、長年にわたり保管されてきた作品の数々をご覧いただくまたとない機会となります。

葛飾北斎は宝暦十年(1760)に現在の東京都墨田区に位置する本所割下水に生まれました。絵師としての人生を歩み始めたのは安永七年(1778)、当時役者絵の第一人者であった勝川春章に弟子入りし、その画風を学んだ北斎は翌年に「勝川春朗」の名で作品を世に送り出します。師の元で役者絵を出す一方、浮絵などの西洋画法を吸収し、幅広い創作活動を展開しました。その後、宗理と号を改めた北斎は独自の画風を模索するなか、「二美人」などにみられる細身で目鼻が小さくうりざね顔の「宗理型美人」を確立し人気を集めました。『春の曙』はそんな美人画で頭角を現し始めた北斎と当時美人画の名手だった喜多川歌麿との貴重な合作です。

葛飾北斎の号を名のる40代中頃は読本挿絵に注力した時代でした。曲亭馬琴、柳亭種彦などの作家と交友を結び『新編水滸画伝』『近世怪談霜夜星』など数々の名作を生み出しました。これらの挿絵は独創的な構図と巧みな演出表現が話題となり、読本ブームを起こすとともに北斎の絵師としての評価を大きく向上させる要因になりました。

50代から70代、戴斗・為一期は浮世絵師として大成した時代といえるでしょう。戴斗期に発行された『北斎漫画』は、本来数多くの弟子たちにむけた指南書として生み出された絵手本でした。しかし3900図を超えるイラスト集は市井の人々も手に入れたがる大変なベストセラーになり、のちに海外に渡って西洋の芸術家にも多大な影響を与えました。北斎の代表作にしてあらゆる富士の姿を描いた「富嶽三十六景」を制作したのは70台初頭、為一期の頃です。この頃は最も浮世絵版画に傾注した時期であり、他にも「諸国名橋奇覧」「琉球八景」などのシリーズを数多く出版し、浮世絵版画の世界に風景版画という新たなジャンルを確立しました。

晩年『富嶽百景』で画狂老人卅の号を使う頃から北斎は肉筆画を多く手がけました。天保十三年(1842)、門人高井鴻山のもとを訪ねた北斎は、以後数回にわたり小布施を訪ね、東町・上町祭屋台の天井絵をはじめ多くの肉筆画を描きました。北斎を支え、自身も絵師として活動した娘のお栄(葛飾応為)も二度目の来訪の折に同行したとされ、北斎親子と小布施を繋ぐ作品や史料は当地に残された貴重な資料として今も受け継がれています。

展覧会名となる“視覚のマジック”は人や建物、風景などにみられる現実離れした構図ながらも違和感がなく、かえって魅力的に感じさせる北斎の視覚的演出を意味します。いまや国内に留まらず世界に向けて発信される葛飾北斎、その名品の数々を存分にお楽しみください。

## 企画展示室 I (Exhibition Room 1)

### 版画

三代目瀬川菊之丞 おそめ  
三代目瀬川菊之丞 大いそのとら  
三代目瀬川菊之丞 太刀持ち  
三代目大谷廣次 新がた二郎  
両国水茶屋  
風流見立狂言 柿山伏  
風流おどけ百句 井戸替  
妊婦  
三夕  
浮絵一ノ谷合戦坂落之圖  
新板浮絵忠臣蔵 才七段目  
新板浮絵日本橋肴市繁昌之圖  
江都両国橋夕涼花火之圖  
阿蘭陀画鏡 江戸八景／観音・高縄・両国・境町・吉原

### 摺物

洗い張り  
遠眼鏡  
舟から降りる深川芸者  
伊勢暦を見る娘  
□□天神(千金の春)  
隅田川兩岸一覽 駒形  
六美人  
諸芸三十六のつき 書  
梅樹  
舟に橋  
霞む吉原

### 揃物

#### 富嶽三十六景

江都駿河町三井見世略圖  
東都淺艸本願寺  
武揚佃畷  
五百らかん寺さゞみどう  
礪川雪ノ旦  
下目黒  
隠田の水車  
東海道品川御殿山ノ不二  
武州千住  
登戸浦  
凱風快晴  
山下白雨  
神奈川沖浪裏  
相州七里浜  
相州仲原  
駿州片倉茶園ノ不二  
身延川裏不二  
東海道金谷ノ不二  
東海道吉田

## 琉球八景

中島焦園  
桑村竹離  
城獄靈泉

## 諸国名橋奇覽

ゑちぜんふくみの橋  
かめみど天神たいこばし  
足利行道山くものかけはし  
東海道岡崎矢はきのはし  
飛越の堺つりはし  
かうづけ佐野ふなはしの古づ

## 春婦齋北妙 富嶽三十六景

江戸日本橋  
東都淺艸本願寺  
下目黒  
隅田川関屋の里  
登戸浦  
相州江の島

### ガラスケース①

北齋漫画 初編・四編・五編・七編・八編・九編  
十一編・十二編

### ガラスケース②

富嶽百景／初編(二冊)・二編(二冊)・三編  
川村岷雪 百富士

## 企画展示室2 (Exhibition Room 2)

### 版 本

智恵次第箱根詰  
我家楽之鎌倉山  
新編水滸画伝 初編／卷ノ一・卷之三  
近世怪談霜世星  
勢田橋竜女本地  
駒組童観抄  
今様櫛[キセル]雛形／櫛之部・キセル之部  
絵本彩色通／初編・二編

### ガラスケース①

春の曙  
潮来絶句集

### ガラスケース②

百嘯  
隅田川兩岸一覽／中巻・下巻

## 悪魔を払う禁呪

日新除魔／十月廿六日・十月十日  
十月十一日・霜月十三日  
日新除魔 樵図

## 北齋親子と小布施

書状 例之以而悪筆奉啓上候 葛飾北齋筆  
書状 新春之御吉慶 葛飾北齋筆  
書状 小布施栗書状 葛飾応為筆  
書状 舌代 葛飾応為筆  
貼り交ぜ屏風 百合図 葛飾応為筆  
貼り交ぜ屏風 納涼美人図 伝葛飾応為筆

## 肉筆展示室 (Original Paintings Exhibition Room)

肉筆画帖／前北齋為一改画狂老人卅筆  
竹に雀／八十五老卅筆  
柳下傘持美人／画狂人北齋画  
二美人／画狂人北齋画  
白拍子／葛飾戴斗改為一筆  
吉原遊君 八朔行事／葛飾北齋  
上山喜兵衛像／画狂人北齋画  
野人对瓶花／画狂老人北齋画  
三島の玉川／北齋画  
調布の玉川／北齋画  
秋草／画狂老人卅筆  
富士越龍／九十老人卅筆  
菊図／八十八老人卅筆 齡八十八歳卅筆  
桔梗／北齋戴斗筆  
巖上の大鷲／画狂老人卅筆

### ガラスケース

雪中せきれい／前北齋卅筆

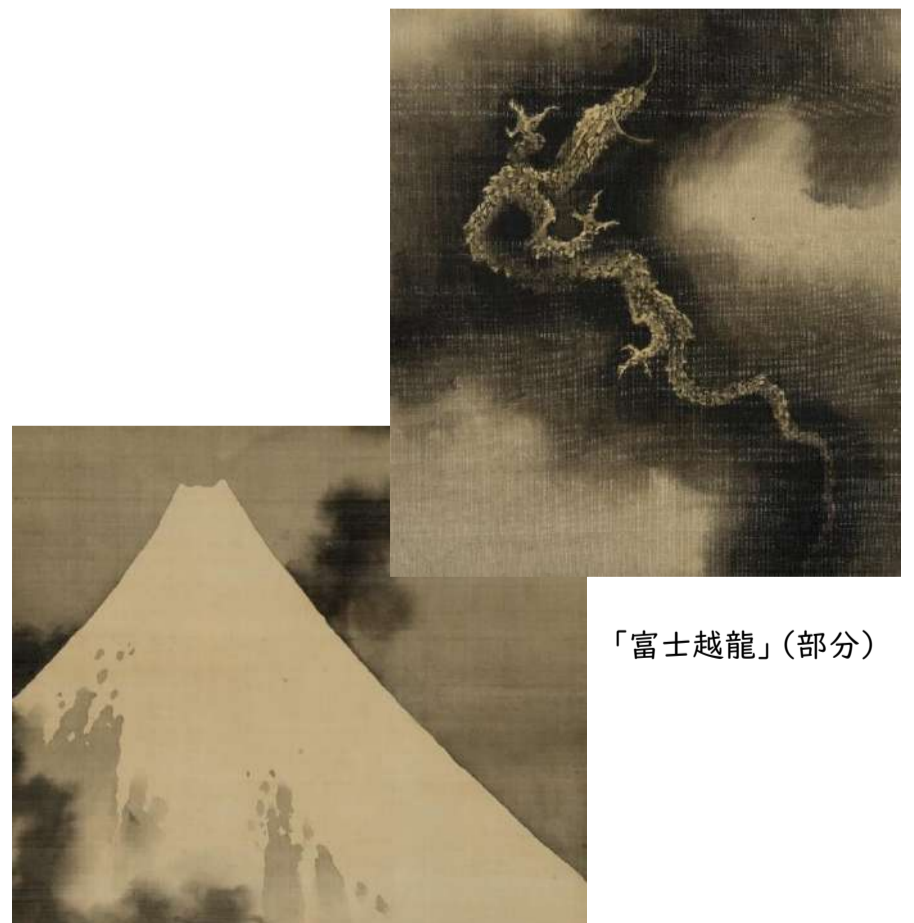
## 祭屋台展示室 (Festival Floats Exhibition Room)

### 東町祭屋台天井絵

龍  
鳳凰

### 上町祭屋台天井絵

男浪  
女浪



「富士越龍」(部分)